

1. しが防災プラスワンを作成した経緯

これまで防災対策は男性の視点で考えられがちでしたが、女性をはじめ多様な人たちの立場・視点で考える必要があります。

令和元年度から『滋賀県女性の参画による防災力向上検討懇話会』を設置し、女性の参画による防災力の向上について意見交換を行ってきました。このたび、その取組の一環として、防災対策において見落としがちな課題とその対応策について学び、これからの防災対策を考える啓発カード集「しが防災プラスワン～女性の視点と多様性～」(Ver.2)を公開しました。

「しが防災プラスワン～女性の視点と多様性～」は、啓発カード「知っというカード」とゲーム形式で防災を考えるカード「どっちにするカード」の2種類があります。単独で使用していただくことも、組み合わせて使用していただくこともできます。どなたにも気軽に使っていただけるように、滋賀県ホームページにデータを掲載します。著作権フリーですので、利用目的に応じ、必要な部分を組み合わせてお使いいただけます。(カードの趣旨が変わるような改変は行わないでください。)

2. 知っというカードの使い方・構造

- ・防災研修等の際、防災対策の基礎にプラスワンしていただき、自分だけでなく、様々な人の立場・視点で防災対策を考えるきっかけとしていただけます。
- ・研修会や勉強会など、様々な場面に応じて取り入れてもらいやすいように1枚ずつカード化しました。
- ・有識者や防災士、地域で防災活動されている女性、社会福祉協議会職員、大学生など様々な立場の方からアドバイスをいただき作成しました。

**人材育成と
支え合い**

出勤・出勤する人を支えよう

場面のイメージイラスト

キーワード

災害時には消防や警察、医療・福祉関係者、担当職員などは出勤・出勤しなければなりません。中には高齢の親や幼い子どもなど、世話が必要な家族を残し、不安な気持ちを抱えたまま働く人もいるでしょう。また、非常時に家族を置いて出勤できないなどの理由により、意欲のある人たちが出勤できないこともあります。

なぜ見出しの事由が必要なのか
様々な立場・視点で防災対策を考えるきっかけに

出勤する人の家族を預かったり、見守ったりする仕組みを地域で考え、構築しましょう。

- ・安全な場所で、臨時の託児所などを開設する
- ・出勤する人たちの家族を、支援者の自宅に預かる
- ・出勤する人の留守宅で支援者が家族に付き添う

**地域や社会で
何ができる？**

Mother Lake
滋賀県

3. どっちにするカードの使い方・構造

「どっちにするカード」は、クロスロード(Crossroad)※1を参考にカード化したものです。災害現場をはじめ防災活動における様々な場面を想定し、それぞれのカードには「あなたの立場」と「その場面の説明」が書いてあります。

あなたは……親(保護者)です あなたの立場

- ・大地震で自宅が半壊、避難所に行くことになりました。小学校4年生の息子が最新のゲーム機とゲームソフトを持っていくと言い出しました。
- ・あなたは、ゲーム機とソフトを持っていくことを許しますか？

持っていさせる

YES

2 択の選択肢

持って行かせない

NO

場面の説明、問いかけ

進め方

- ・YESかNOか、意思表示しましょう。
- ・YESの人、NOの人、それぞれ判断した理由は？
- ・それぞれの問題点を考えましょう。

- ・その場面で、あなたはどうするのか、答えは、YES か NO です。
あなた自身が判断して答えてください。
- ・答え終わった後、なぜ YES を選んだのか、または、なぜ NO を選んだのか考えてみましょう。
- ・そのうえで、皆さんで話し合い、YES の場合の問題点、NO の場合の問題点を抽出しましょう。
- ・さらに、これらの問題点を整理することで、様々な事象の問題点が浮き彫りになり、改善方法の発見などにつながります。
- ・「どっちにするカード」に正解はありません。皆さんの判断が答えです。災害は、時間とともに刻々と変化します。その時々状況に応じた適格な行動が重要です。

【ワンポイント】

困っている人物を見つけた場合、その人の意見を聞く必要がありますが、本音を聴きだすには、安心して話せる場所や信頼関係、話したことで不利益を被らない配慮や継続的なフォローも必要です。一時的なボランティアであれば、専門相談窓口の連絡先を渡す、人権相談窓口等に一報を入れる等で、継続的な支援につながることも一つの方法です。

○研修等の講師の方をサポートするカードとして、どっちにするカードには上記のカードに加え「どっちも問題点があります」「判断のポイント」といったカードがあります。

- ・「どっちも問題点があります」には、YES、NO、それぞれの選択肢を選んだ研修者が挙げる、選択の理由とその裏返しである問題点が列挙されています。
- ・必要に応じて、このカードの一部を参加者に投げかけるなど活用方法は様々です。
- ・このカードには、同じ選択肢の中でも、異なる意見が記されています。これは、参加者によって意見が分かれうることを想定しての記載です。（ある行為がドメスティックバイオレンスに「既に相当」or「これから発展」等）

【ワンポイント】

「避難所を開設して1週間が経過、自分の隣に住んでいる住人がやってきて、在宅避難しているので食料が欲しいと言ってきました。」について

- ・在宅避難者を避難所でリストアップし、市町に申請すれば避難所に必要な物資が届くようになります。講師は、ゲーム後にこのことを参加者に伝えるようにしましょう。
- ・「自治会加入者以外に配るとなれば、平時の自治会加入者が減ってしまう」という意見が参加者から出るかもしれません。
- ・「防災のために自治会に参加してほしい」が難しい場合にも「少なくとも自主防災組織には入って」というアプローチ方法があることをお伝えするのも一つの方法です。

- ・「判断のポイント」のカードには YES、NO の判断に影響する視点が記載されています。
- ・「判断のポイント」の内容を提供することで、さらに多角的な視点から問題をとらえることができます。
- ・「どっちも問題点があります」「判断のポイント」は講師の方用ではありますが、参加者に示すことも可能です。研修会等の形式に沿ってご自由にお使いください。なお、これらのカードを各参加者に見せながら進行するためのパターンもご用意しています。参加者層に合わせ、使い分けてご利用ください。

4. 知っというカードとの連携

「どっちにするカード」は、「知っというカード」と組み合わせることで、より広くより深く防災を学ぶことができます。これまでの防災に対する視点を少し変えると、新たな発見や見過ごしてきた重要なことも再確認することができます。これらのカードで、新たな「気づき」を体感してください。

※1 Crossroad(クロスロード)は、文部科学省大都市大震災軽減化特別プロジェクトの支援を受けて製作されました。(商標登録済)

商標番号 2004-83439(第 28 類)「CROSSROAD」

同 2004-83440(第 28 類) 付加複製

制作・著作:Team Crossroad チームクロスロード